TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　421語

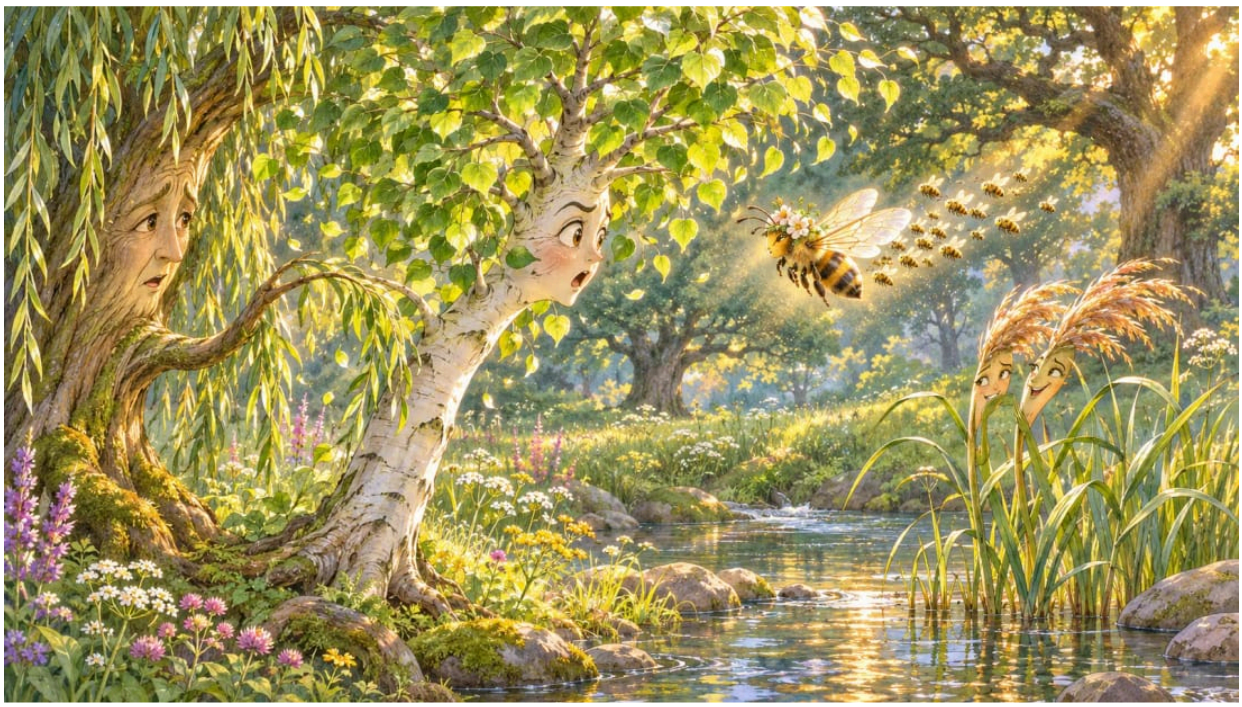
Why the Aspen Leaves tremble

どうしてポプラの葉はふるえるの？

Florence Holbrook（1902年の本）　原文そのまま　朗読：Raybrite

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　アシたちのうわさ話を聞いて、かんかんにおこったポプラの木。女王バチの悪口まで言ってしまい、さあたいへん……。



"It is very strange," whispered one reed to another, "that the queen bee never guides her swarm to the aspen-tree."

"Indeed, it is strange," said the other. "The oak and the willow often have swarms, but I never saw one on the aspen. What can be the reason?"

"The queen bee cannot bear the aspen," said the first. "Very likely she has some good reason for despising it. I do not think that an insect as wise as she would despise a tree without any reason. Many wicked things happen that no one knows."

The reeds did not think that any one could hear what they said, but both the willow and the aspen heard every word. The aspen was so angry that it trembled

from root to tip. "I'll soon see why that proud queen bee despises me," it said. "She shall guide a swarm to my branches or"—

"Oh, I would not care for what those reeds say," the willow-tree broke in. "They are the greatest chatterers in the world. They are always whispering together, and they always have something unkind to say."

The aspen-tree was too angry to be still, and it called out to the reeds, "You are only lazy whisperers. I do not care what you say. I despise both you and your queen bee. The honey that those bees make is not good to eat. I would not have it a anywhere near me."

"Hush, hush," whispered the willow timidly. "The reeds will repeat every word that you say."

"I do not care if they do," said the aspen. "I despise both them and the bees."

The reeds did whisper the angry words of the aspen to the queen bee, and she said, "I was going to guide my swarm to the aspen, but now I will drive the tree out of the forest. Come, my bees, come."

Then the bees flew by hundreds upon the aspen. They stung every leaf and every twig through and through. The tree was driven from the forest, over the prairie, over the river, over the fields; and still the angry bees flew after it and stung it again and again. When they had come to the rocky places, they left it and flew back to the land of flowers. The aspen never came back. Its bright green leaves had grown white through fear, and from that day to this they have trembled as they did when the bees were stinging them and driving the tree from the forest.

「とてもふしぎだね」と、一本のアシがもう一本にささやきました。「女王バチは、けっしてむれをポプラの木へつれていかないんだ。」

「本当にふしぎだね」ともう一本が言いました。「カシやヤナギにはよくむれがいるけれど、ポプラにいるのは見たことがないよ。どうしてだろう？」

「女王バチはポプラががまんできないんだよ」とさいしょのアシが言いました。「きっと、ポプラをきらうちゃんとしたわけがあるんだろう。あんなにかしこい虫が、わけもなく木をきらうとは思えないからね。だれも知らない悪いことが、たくさんおこっているものさ。」

アシたちは、だれにも聞かれていないと思っていましたが、ヤナギもポプラも、ひとことのこらず聞いていました。ポプラはおこって、根っこからこずえまでぶるぶるふるえました。「あのいばった女王バチが、どうしてわたしをきらうのか、すぐにたしかめてやる」とポプラは言いました。「むれをわたしのえだにつれてこさせてやる。さもないと――」

「まあ、アシの言うことなんか気にしないほうがいいわ」と、ヤナギが口をはさみました。「あの人たちは、世界一のおしゃべりなのよ。いつもひそひそ話をしていて、いつもいじわるなことを言うんだから。」

ポプラはおこりすぎてじっとしていられず、アシたちに大声で言いました。「おまえたちなんか、ただのなまけ者のひそひそ屋だ。何を言われたって平気だ。おまえたちも、女王バチも、大きらいだ。あのハチたちが作るはちみつなんか、おいしくない。そばに置くのもごめんだ。」

「しーっ、しーっ」とヤナギはこわごわささやきました。「アシたちが、あなたの言ったことをみんな言いつけてしまうわ。」

「言いつけられたってかまうもんか」とポプラは言いました。「アシもハチも、大きらいだ。」

アシたちは本当に、ポプラのおこった言葉を女王バチにささやきました。すると女王バチは言いました。「むれをポプラへつれていこうと思っていたけれど、もうやめた。あの木を森から追い出してやる。さあ、ハチたち、おいで。」

すると、ハチが何百びきもポプラにとびかかりました。ハチたちは、葉という葉、小えだという小えだを、何度も何度もさしました。ポプラは森から追い出され、草原をこえ、川をこえ、畑をこえてにげました。それでもおこったハチたちは追いかけてきて、何度も何度もさしました。岩だらけのところまで来ると、ハチたちはポプラをはなれて、花の国へとんで帰りました。ポプラは二度ともどってきませんでした。明るい緑だった葉は、こわさのあまり白っぽくなり、その日から今まで、ハチにさされて森から追い出されたときのように、ふるえつづけているのです。

たんご と クイズ　どうしてポプラの葉はふるえるの？

bees	ハチ	**honey**	はちみつ	**reed**	アシ（水べの草）
queen	女王	**river**	川	**trembled**	ふるえた

Q1 女王バチにポプラの悪口を伝えたのはだれ？

① ヤナギ　② アシたち　③ 風

Q2 ポプラがはちみつについて言ったことは？

① おいしくない　② 世界一あまい　③ 毎日ほしい

Q3 ポプラの葉が今もふるえているのはどうして？

① 寒いから　② うれしいから　③ ハチに追われたこわさがのこったから

こたえ

Q1　②　ヤナギが心配したとおり、アシたちがポプラのおこった言葉を女王バチにささやきました。

Q2　①　おこったポプラは、ハチたちが作るはちみつはおいしくない、とアシたちに言いました。

Q3　③　ハチにさされて森から追い出されたときのこわさがのこって、葉は今もふるえつづけているのです。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Raybrite（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。